



森と木の家の 落とし穴

家を建てる前に
知らなきゃいけない！



内閣府認証(府国生)第1048号
Authorised NPO Forest and Natural Environment Preservation Society
特定非営利活動法人森と自然の会



内閣府認証(府国生)第1048号
Authorised NPO Forest and Natural Environment Preservation Society
特定非営利活動法人森と自然の会
新潟本部：新潟県新発田市新栄町三丁目5番6号
TEL.0254-27-0010 FAX.0254-27-0011

編集協力/(株)夢ハウス



家を建てる前に
知らなきゃいけない！
森と木の家の
落とし穴

世界の森、日本の森

世界の森は減っている。 しかし……？

ご存知のように世界から急速に森が減少しています。

森は動植物の住みかであると同時に、二酸化炭素を吸って、酸素を排出する大切な場所。

もう伐らない方が良くと考える人も多いでしょう。

ところが、驚くなかれ。実は伐った方が良く森もあるのです。

環境破壊の例としてクローズアップされるのは熱帯雨林ですが、

これらは二度木を伐ると、伐る以前の森に戻りにくい風土。

また、伐りつ放しで植林の努力もほとんどされていません。

しかし、日本のように古くから木と付き合い合ってきた国は、ほとんどの森が人工林。

これは世界でも珍しいことで、また、あまり知られていませんが

日本の森では木が余っている状態なのです。



日本では現在

7億5千万本以上の木が

余っているんだよ。



森と日本人の歴史

先人は知っていた。
森と暮らしの関係を。

日本人は昔から生活に木を利用してきました。

家や舟の材料に用いて、材料にならない木や枝は薪などに使い、
けつして無駄にはしませんでした。

そして伐つた後は必ずまた木を植え、育ててきました。

意外かもしれませんが他の国では植林の歴史がほとんどありません。

植林は日本人が培った知恵でもあるのです。

日本という狭い国土では森を守らなければ洪水や濁水が発生し、
米などの農作物が作れなくなります。

森は今でも「緑のダム」と言われますが、昔の人は

豊かな森には美しい水が蓄えられることを知っていたのでしよう。



実際に戦時中に日本の木は使い切られ、

森がなくなり、はげ山と化したため、その後各地で

洪水や土砂崩れなどの被害が続きました。

国も政策に乗り出して30〜40年で成長する杉やヒノキなどの

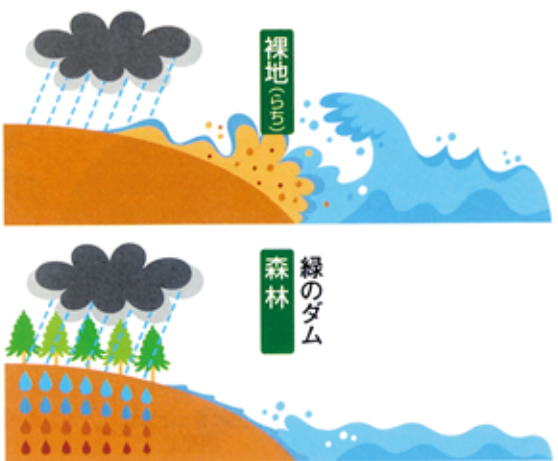
植林を進め、近年になってようやく森が蘇りました。

しかし、その後手入れもされず、

森は荒れたままになっているのが現状です。

「植えっぱなしの荒れた森に

国も対応に困っているんだよ。」



森がない裸地(らち)には地面に雨が浸透せず、多くの水が川へ流出する。そのため大雨になると洪水になる可能性が高い。また、森の地表は落ち葉や草で覆われており、雨が降っても土が崩れにくい。さらに地下では木の根が土や岩を固く縛り付けているので森では土砂崩れが起きにくい。